

(6) 学習支援

GPA（Ⅶ. 履修の手引き 7. GPA 制度について参照）2.0 未満の学生または授業に集中していない学生は学習支援・生活支援を受ける。

- ① チューター教員と個人面談を受け、学期を振り返る。
- ② 振り返りシートを記入し自身を客観的に見つめる機会を設ける。
- ③ 本人・チューター教員・学科長の3者面談を行う。
- ④ 問題点を明確にし、学科・学生部・家族と連絡を密にし改善策を考える。

自分自身の目標を設定し、それに向けての努力度・達成度について月に1回程度チューター教員と面談する。また専任教員により、科目に関する個別指導を受ける。

5. カリキュラムマップ

1) 松本短期大学の「5つの柱」と「5つの到達目標」との関係

「5つの到達目標」を達成するために3学科共通の枠組みである「5つの柱」を土台とし、全科目を構成している。また、これらの統合である「介護実習」で、実践的で貴重な学びへとつながるようにしている。（図3参照）

		到達目標(DP)	(1)温かいところと豊かな感性を備え、人への深い関心をもち、個人の尊厳を守り、信頼関係を築くことができる。	(2)介護を必要とする人の自立支援とその人らしい生活を支えることのできる専門的知識と技術を修得している。	(3)根拠に基づいた介護過程の展開ができ、質の高い利用者本位のサービスを考えることができる。	(4)常に問題意識をもち、介護実践の質的な向上や介護をめぐる課題について探求し、より良い介護を追求できている。	(5)介護実習や地域交流等で、多職種との連携・協働や地域に貢献する必要性を理解できている。	
卒業	2年次履修	後期	△介護特別講座Ⅱ ○いのちと健康 ◎人間の尊厳と自立 △発達心理学	○医療的ケアを必要とする生活支援Ⅲ・Ⅳ ○終末期の介護 ◎障害の理解Ⅱ	<input type="checkbox"/> 介護過程展開論Ⅲ ◎居宅サービス展開論	<input type="checkbox"/> 介護総合演習Ⅳ ◇介護の基本Ⅳ	◎介護の基本Ⅲ	
		前期	介護総合実習 △介護特別講座Ⅱ <input type="checkbox"/> アクティビティ・サービス論 ◇死にゆく人の理解	○障害の理解Ⅰ <input type="checkbox"/> 手話 ◇介護の基本Ⅱ △コミュニケーションと介護Ⅱ	<input type="checkbox"/> 生活リハビリテーション <input type="checkbox"/> 介護過程展開論Ⅱ	○医療的ケアを必要とする生活支援Ⅰ・Ⅱ <input type="checkbox"/> 介護総合演習Ⅲ <input type="checkbox"/> 総合的生活支援Ⅱ ◎社会保障論Ⅱ	<input type="checkbox"/> 福祉住環境論	
	1年次履修	後期	個別援助技術実習 介護基礎実習 △感性を高める表現	○発達と老化の理解Ⅰ・Ⅱ ○□こころとからだのしくみⅡ <input type="checkbox"/> 生活支援技術の基本Ⅱ △介護特別講座Ⅰ △情報処理演習	◇総合的生活支援Ⅰ <input type="checkbox"/> 介護総合演習Ⅱ <input type="checkbox"/> 介護過程展開論Ⅰ	<input type="checkbox"/> 認知症援助論 ◇介護福祉論Ⅱ ◇介護の基本Ⅰ ◎社会保障論Ⅰ	◇生活交流演習	
		前期	介護導入実習Ⅰ・Ⅱ ○こころのしくみ <input type="checkbox"/> ストレスと癒し △対人コミュニケーション論	○認知症総論 ○人体の構造と機能及び疾病 ○□こころとからだのしくみⅠ・Ⅲ <input type="checkbox"/> 生活支援技術の基本Ⅰ・Ⅲ ◇家政の生活支援Ⅰ ◇家政の生活支援Ⅱ △コミュニケーションと介護Ⅰ	<input type="checkbox"/> 介護総合演習Ⅰ ◇介護過程総論 ◇生活支援技術総論	◇介護福祉論Ⅰ ◎現代社会と福祉	◇地域ボランティア演習 ◇生活交流演習	
入学		○ひとの命と健康を考える <input type="checkbox"/> ひとの可能性を考える	◇ひとの生活を考える ◎ひとの権利を考える △学修の基礎力を培う					
入学生の受け入れ方針(AP)		<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護福祉や社会福祉に関心をもち学ぶ意欲をもっている ・ 人の立場になって考えることができる ・ 人の話をよく聴き、自分の考えを伝えることができる ・ 人と共に協力して活動に取り組むことができる ・ 入学後の学修に必要な基礎学力がある 						

図3 カリキュラムマップⅠ

2) 各科目の「到達目標」と「5つの到達目標」との関係

「5つの到達目標」を達成するために各科目の到達目標を明記し、より具体的なものとしている。
(表3参照)

表3 平成31年度入学生1年次カリキュラムマップⅡ

授業科目名	科目の到達目標	「5つの到達目標」に全て関係する				
		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
対人コミュニケーション論	1. 対人援助に必要なコミュニケーションの意義や基本原理を理解できる。 2. 自他を尊重したコミュニケーションについて理解できる。 3. 小集団におけるコミュニケーションの特性と技法がわかる。	◎	○			
社会保障論Ⅰ	1. 社会保障制度の意義について理解できる。 2. 社会保険のしくみについて理解できる。 3. 介護保険制度の基本について理解できる。 4. 介護保険の動向を理解できる。				◎	◎
現代社会と福祉	1. 個人の暮らしが家族、地域、社会との関連で成り立っていることを理解できる。 2. わが国の社会保障の基本的考え方、しくみについて理解できる。 3. 地域共生社会や地域包括システムの基本的な考え方を理解できる。 4. 社会福祉制度の発達について理解できる。 5. 社会福祉制度の法と福祉サービスの理念について理解できる。		○	○	◎	◎
生活交流演習	1. 学生間や教員との交流ができる。 2. 地域の歴史や生活を学ぶことができる。 3. 介護現場への興味や理解を深めることができる。 4. 農業や園芸療法に興味を持ち実践できる。 5. 郷土食に興味を持ち、調理体験ができる。	○	○	○	○	◎
地域ボランティア演習	1. 地域の子どもや高齢者と交流し、地域の生活を知ることができる。 2. 3学科の特性を意識して、活動に活かすことができる。 3. 他学科の学生と学びあい、専門性を理解して協力できる。	○	○			◎
感性を高める表現	1. 作品作り、音楽とアート、ワークを通じたコミュニケーションを経験する事が出来る。 2. ケアの視点から、作品づくり、音楽とアート、ワーク等の実践力を身に付ける事が出来る。	◎	○			
ストレスと癒し	1. 様々な癒しの技法に触れることができる。 2. 癒しの技術を習得できる。 3. 癒しの技術を他者に提供できる。	◎	○		○	
情報処理演習	1. Wordの基本操作を習得し、文書を作成できる。 2. Excelの基本操作(表・グラフ・関数)を習得する。 3. PowerPointの基本操作を習得し、効果的なプレゼンテーション資料を作成できる。			◎		○
介護特別講座Ⅰ	1. 介護福祉士国家試験の概要について理解することができる。 2. 介護福祉士国家試験の該当科目に関する知識を習得することができる。			◎		
介護福祉論Ⅰ	1. 介護の本質的理解ができる。 2. 介護を取り巻く社会状況と専門職の役割の理解ができる。 3. 尊厳・自律・生活についての基本的理解ができる。	○			◎	
介護福祉論Ⅱ	1. 尊厳の保持・自立支援・基本的人権の尊重についての基礎的な理解ができる。 2. チームケアの必要性と展開方法の習得ができる。 3. 学び続けることの意義と方法が理解できる。	○			◎	
介護の基本Ⅰ(介護の対象)	1. 介護の対象者の心身状況や暮らし等から、今の状況の多様性・複雑性を理解できる。 2. 一人一人の生き方を尊重していくことの大切さを学ぶことができる。	○			◎	
コミュニケーションと介護Ⅰ	1. 介護に必要なコミュニケーションの考え方を理解できる。 2. 様々な場面でのコミュニケーション技法を身につけることができる。 3. チームアプローチに必要なコミュニケーション技法を身につけることができる。	○	◎			◎
生活支援技術総論	1. 生活支援の意義や考え方について理解ができる。 2. 生活支援技術が、それぞれの利用者の介護過程にともなうものであることを理解する。 3. 自立に向けた居住環境の整備の意義や支援について理解ができる。 4. 睡眠に関する知識と技術を習得できる。			○	◎	
生活支援技術の基本Ⅰ(移動)	1. 移動への介護方法を理解できる。 2. 自立に向けた移動への介護技術を習得できる。 3. 生活の拡大を図る援助について考える事が出来る。			◎	○	
生活支援技術の基本Ⅱ(食事・排泄)	1. 自立に向けた食事の介護に関する知識と技術を身につける。 2. 自立に向けた排泄の介護に関する知識と技術を身につける。	○	◎			
生活支援技術の基本Ⅲ(身だしなみ・清潔)	1. 身じたく・入浴・清潔の介護方法を理解できる。 2. 自立に向けた身じたく・入浴・清潔の介護技術を習得できる。			◎	○	
総合的生活支援Ⅰ	1. 自立に向けた介護の視点をもって、事例の利用者の状態・状況をアセスメントし、支援方法を考え実施することができる。 2. 生活の流れ中の支援について考えることができる。			○	◎	
家政の生活支援Ⅰ	1. 家庭生活を円滑に営む上で必要な知識と技術を身につける。 2. 自立に向けた家事援助の技法を身につける。	○	◎			

授業科目名	科目の到達目標	「5つの到達目標」に全て関係する ◎=特に重要な事項 ○=重要な事項				
		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
家政の生活支援Ⅱ	1. 高齢者や障がい者の心身の状況に応じた食品選択及び食事形態を判断する能力を養う。 2. 実践に繋がる調理技術と食事介護の技術を身につける。	○	◎			
介護過程総論	1. 介護過程の意義・目的・目標が理解できる。 2. 介護過程の展開方法が理解できる。 3. ICF（国際生活機能分類）と介護過程の関連を理解できる。		◎			
介護過程展開論Ⅰ	1. 介護過程を実際に展開することができる。 2. 運動機能障害における介護過程の実践的展開ができる。			◎	○	
介護総合演習Ⅰ	1. 様々な状態の利用者がいる事を理解する。 2. 各利用者に合わせた施設サービスがある事を理解する。 3. 現場で積極的に実習を行う事が出来る。 4. 利用者への理解と関心を報告資料にまとめ、発表する事が出来る。 5. 介護現場に対する理解を報告書にまとめ、発表する事が出来る。		○	◎		
介護総合演習Ⅱ	1. 様々な状態の利用者がいる事を理解する。 2. 各利用者に合わせた施設サービスがある事を理解する。 3. 現場で積極的に実習を行う事が出来る。 4. 利用者への理解と関心を報告資料にまとめ、発表する事が出来る。 5. 介護現場に対する理解を報告書にまとめ、発表する事が出来る。		○	◎		
介護導入実習Ⅰ	1. 介護福祉現場に触れ、介護の仕事の内容を理解できる。 2. 温かいところと関心をもって利用者との関わり方を学ぶことができる。 3. さまざまな介護サービスによって利用者のその人らしい生活が支えられていることを理解できる。	◎	○			
介護導入実習Ⅱ	1. 介護福祉現場に触れ、介護の仕事の内容を理解できる。 2. 温かいところと関心をもって利用者との関わり方を学ぶことができる。 3. さまざまな介護サービスによって利用者のその人らしい生活が支えられていることを理解できる。	◎	○			○
介護基礎実習	1. 施設の介護方針および施設環境、生活状況を把握できる。 2. 指導のもと、安全で個別的な生活支援ができる。 3. 主体的に利用者に関わることができる。	◎	○			
発達と老化の理解Ⅰ（身体）	1. 人間の成長と発達の基礎的な理解ができる。 2. 老化に伴うからだの変化と生活について理解ができる。		◎	○		
発達と老化の理解Ⅱ（こころ）	1. 人間の成長と発達の基礎的な理解ができる。 2. ライフサイクルの各期における心理的・社会的な特徴と発達課題について理解ができる。 3. 老化に伴うこころの変化と生活について理解ができる。	○	◎			
認知症総論	1. 認知症の歴史や理念を含む社会的環境について理解できる。 2. 認知症の医学的・心理的な基礎的な理解ができる。 3. 認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識が理解できる。		◎	○		
認知症援助論	1. 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活への影響を理解できる。 2. 認知症の人への援助方法を考えることができる。 3. 認知症の人に対する地域でのサポート体制について学ぶことができる。		◎	○		○
こころのしくみ	1. こころとは何かを考えることができる。 2. こころと行動のつながりについて理解する。	◎	○			
人体の構造と機能及び疾病	1. 人のからだの器官とそれを構成する各部位の名称やはたらきについて理解する。 2. 人体各部位の主な症状について、その発症のメカニズムと特徴的な徴候を理解する。		◎	○		
こころとからだのしくみⅠ（移動）	1. 移動に関連した心と体の仕組みについて理解できる。 2. 移動に関連した機能低下や障害が身体に及ぼす影響について理解できる。		◎	○		
こころとからだのしくみⅡ（食事・排泄）	1. 食事に関連したこころとからだのしくみについて理解する。 2. 排泄に関連したこころとからだのしくみについて理解する。		◎	○		
こころとからだのしくみⅢ（身だしなみ・清潔・睡眠）	1. 身だしなみ（口腔ケアを含む）に関するこころとからだのしくみの基礎知識を習得できる。 2. 入浴・清潔に関するこころとからだのしくみの基礎知識を習得できる。 3. 睡眠に関するこころとからだのしくみの基礎知識を習得できる。		◎	○		

平成31年度入学生2年次カリキュラムマップⅡ

授業科目名	科目の到達目標	「5つの到達目標」に全て関係する ◎=特に重要な事項 ○=重要な事項				
		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
人間の尊厳と自立	1. 人権思想・福祉理念の歴史の変遷を理解し、人間の尊厳と権利擁護の考え方を養う。 2. 人間にとっての自立の意味と本人主体の観点から、尊厳の保持や自己決定の考え方を理解できる。 3. 介護を必要とする人の権利擁護の必要性を理解することができる。	◎	○			
いのちと健康	1. 心身ともに健康的な生活に関心をもつことができる。 2. 様々な視点でのいのちや健康について考えることができる。	◎				○
発達心理学	1. 人の発達に関わる基本的な内容を理解できる。 2. 生涯発達の観点から、各発達期の特徴を把握できる。 3. 子ども、自分について理解を深めることができる。		◎	○		

授業科目名	科目の到達目標	「5つの到達目標」に全て関係する ◎=特に重要な事項 ○=重要な事項				
		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
社会保障論Ⅱ	1. 社会保険制度の種類としくみを理解できる。		○	○		
	2. 障害者福祉施策のしくみと内容を理解できる。		○	◎		
	3. 生活保護制度の概要を理解できる。		○	◎		
	4. 介護実践に関する諸制度の概要を理解できる。		○	◎		
手話	1. 基礎的な手話を習得できる。		◎	○		
	2. 聴覚障害について総合的に理解できる。		◎	○		
福祉住環境論	1. 福祉住環境コーディネーターに必要な基本的な知識と技術を習得できる。		○			◎
	2. 福祉住環境コーディネーター検定試験2級または3級を受験し、合格する力を養うことができる。		○			◎
アクティビティ・サービス論	1. アクティビティ・サービスの基本を理解する事が出来る。	◎	○			
	2. アクティビティ・サービスの実践的技術を習得する事が出来る。	○	◎			
生活リハビリテーション	1. 高齢者の残存能力の活用について理解できる。			◎	○	
	2. 高齢者特有の基本動作を自らが行えるようになる。		○	◎		
	3. 常に「なぜ」という疑問を持ち、自分の考えを主張できる。			○	◎	
介護特別講座Ⅱ	1. 介護福祉士国家試験に合格できる力（125問中80問以上正解）を養うことができる。	○	◎			
	2. 自らの視野を広げることができる。	○				
介護の基本Ⅱ（自立支援）	1. 自立・自律・自立支援について理解できる。		◎	○		
	2. 実際に障害のある人の生活より自立生活とは何か理解できる。		◎	○		
	3. リハビリテーションの意義、考え方の理解ができる。		◎	○		
	4. 病院・施設・在宅、それぞれの場におけるリハビリテーションについて理解できる。		◎	○		
介護の基本Ⅲ（介護福祉サービス）	1. 介護を必要とする人の生活を支える地域と地域包括ケアシステムのしくみを理解する。				○	◎
	2. 介護を必要とする人の生活の拠点と介護保険サービス、障害福祉サービスの活用について理解する。				○	◎
	3. 介護を必要とする人の生活を支える地域連携やフォーマル・インフォーマルサービスの役割を理解する。				○	◎
介護の基本Ⅳ（介護安全対策）	1. 介護における事故防止と安全の確保の必要性が理解できる。		○	◎		
	2. リスクマネジメントの意味・目的が理解できる。		○	◎		
	3. 尊厳の保持、自立支援を生活の観点から捉え理解でき関与することができる。		○	◎		
	4. 介護従事者の安全について理解でき対応できる。		○	◎		
コミュニケーションと介護Ⅱ	1. 介護現場で必要なチームでのコミュニケーションの方法を理解する。		○			◎
	2. コミュニケーション障害のある人とのコミュニケーションの方法を習得できる。	○	◎			
	3. コミュニケーション障害のある人とのコミュニケーションの留意点を理解する。	○	◎			
総合的生活支援Ⅱ	1. 事例の利用者の外出の支援を行うことができる。			◎	○	
	2. 地域で暮らす障がい者（高齢者）の「暮らしやすさ」について考える。			○	◎	
	3. 地域の「バリアフリー」について考える。				◎	○
終末期の介護	1. 終末期における尊厳の保持について理解できる。	◎		○		
	2. 終末期の状態を理解できる。		◎	○		
	3. 安全に安楽に援助できる知識・技術を習得することができる。		◎	○		
医療的ケアを必要とする生活支援Ⅰ	1. 介護職の医療的ケア実施の導入の経緯や制度等を理解できる。				◎	○
	2. 安全な療養生活ができるよう、個人の尊厳を守り感染予防等医療的ケアの基礎知識を理解できる。		◎		○	
医療的ケアを必要とする生活支援Ⅱ	1. 喀痰吸引の根拠に基づく知識を深め、予防的ケアや適切なケア方法が理解できる。			○	◎	
	2. 経管栄養の根拠に基づく知識を深め、適切なケア方法が理解できる。			○	◎	
医療的ケアを必要とする生活支援Ⅲ	1. 喀痰吸引の根拠のある知識のもとに、安全な実施手順が理解できる。		◎			○
	2. 経管栄養の根拠のある知識のもとに、安全な実施手順が理解できる。		◎			○
医療的ケアを必要とする生活支援Ⅳ	1. 喀痰吸引（口腔・鼻腔吸引、気管カニューレ内の吸引）の演習評価基準に達し、適切な援助ができる。		◎			○
	2. 経管栄養（胃ろう・経管栄養）の演習評価基準に達し、適切な援助ができる。		◎			○
介護過程展開論Ⅱ	1. 感覚機能障害のある人の自立した生活・望ましい生活について考えることができる。		○	◎		
	2. 感覚機能障害のある人への介護過程を展開し、その人の生活課題に応じた介護計画を作成することができる。		○	◎		
介護過程展開論Ⅲ	1. 認知症や精神障害のある人の介護過程を展開できる。		○	◎		
	2. 介護過程を展開する中で、その人の自立した生活と支援のあり方について考えることができる。			◎	○	
居宅サービス展開論	1. 居宅において生活支援をすることの意味を理解できる。			◎	○	
	2. 介護保険制度における居宅サービス計画と個別援助計画の位置づけを理解できる。			◎	○	
	3. 居宅サービス計画立案におけるケアマネジメントの流れと多職種連携の実際について理解できる。			○		◎
介護総合演習Ⅲ	1. 介護総合演習の目的・内容を理解し、演習に臨む準備ができる。		◎			
	2. 実習後の問題意識を介護研究につなげることができる。		◎	○		
	3. これまでの実習等から自分の介護観をもつことができる。			○	◎	
介護総合演習Ⅳ	1. 介護総合演習での学びから課題を追求し介護福祉・事例研究のまとめを行うことができる。			○	◎	
	2. 実習の成果を発表することができる。			○	◎	
	3. これまでの実習等から自分の介護観をもつことができる。	◎		○		

授業科目名	科目の到達目標	「5つの到達目標」に全て関係する ◎=特に重要な事項 ○=重要な事項				
		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
個別援助技術実習	1. 介護過程を展開し、介護計画を立案できる。		○	◎		
	2. 根拠に基づいた生活支援技術を身につけることができる。		◎		○	
	3. 個別援助の重要性を理解できる。	◎				○
介護総合実習	1. 自主的な実習を行い、他者の立場を考え、行動できる姿勢を身につけることができる。			◎		○
	2. 利用者にとって必要な生活支援を総合的に考えられる。		◎	○		
	3. 自己の介護観をもつことができる。	◎				○
障害の理解Ⅰ	1. 障害者福祉の基本理念が理解できる。			○		◎
	2. 障害をもつ人の身体的・心理的・社会的状況が理解できる。	◎				○
	3. 身体障害（肢体不自由・視覚障害、聴覚障害、内部障害）について理解できる。			◎	○	
	4. 障害のある人の家族への支援について理解できる				◎	○
障害の理解Ⅱ	1. 障害がある人の身体的・心理的・社会的状況の理解と制度と支えるしくみの理解		◎	○		
	2. 精神障害、発達障害、知的障害、高次脳機能障害、難病等がある人の生活支援の理解ができる。		◎	○		
	3. 障害者の生活支援のための多職種連携の重要性について理解できる。				○	◎
死にゆく人の理解	1. 死についてのとらえ方が理解できる。	◎	○			
	2. 死にゆく人の心、思いについて理解できる。	◎	○			
	3. 終末期のケアの仕方が理解できる。	◎	○			

3) 科目領域と実習と到達目標との関係

介護福祉士養成教育は、「人間と社会」「介護」「こころとからだのしくみ」の3つの領域からなっている。介護が実践の技術であるということをふまえ、その基盤となる教養や倫理的態度の涵養に資する「人間と社会」、尊厳の保持、自立支援の考え方をふまえ、生活を支えるための「介護」、多職種協働や適切な介護の提供に必要な根拠としての「こころとからだのしくみ」の構成になっている。「介護実習」は「介護」領域の中に入っているが、養成教育において「介護実習」の役割は大きい。

そこで、これらの関係を図示すると車に例えることができる。「人間と社会」と「こころとからだのしくみ」は車の車輪にあたり車体を支えるものとなる。車の車体は「介護」となり、専門的知識・技術を兼ね備えてくれば上等な車体にも変化できる。車体の中にあるものが「介護実習」である。「介護実習」は車の内装ともなり、人を安全に適切に目標に近づけていくことになる。(図4参照)

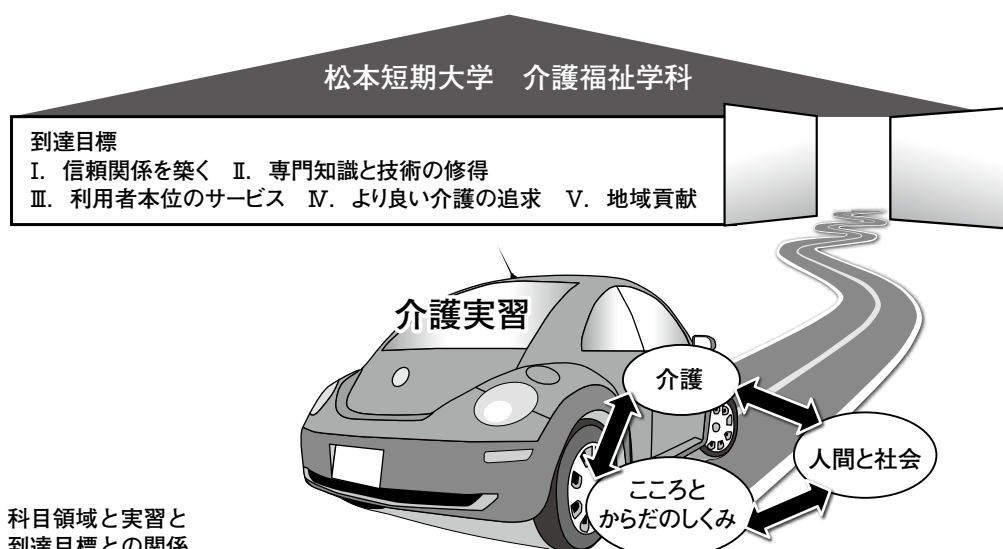


図4 科目領域と実習と到達目標との関係